

6 石炭記念館に求められるもの

本章では、これからの石炭記念館の基本コンセプトである「石炭産業の過去・現在・未来を伝える拠点」の実現に向け、果たすべき3点の役割を实践する上で必要と考えられる機能、取組、検討方針について、次のフロー図の流れでまとめます。

役割を実現するために求められる機能

機能を発揮するための基本的な取組

検 討 方 針

【施設全体のリニューアル方針について】

※ 施設全体のリニューアルについては、既存建物の改修(増築も含む)を基本に検討を進め、「建物の価値」・「コスト面」を考慮したうえで判断していきます。

1 機能

(1) 「記録や記憶の集積地」としての機能

① 収集・管理・公開

- 石炭産業に関連する各種資料(道具、機材、紙資料、映像、音声フィルム等)の収集、整理、公開。

② 調査研究

- 資料や文献の調査研究、研究を通して得た成果の集積及び公開。

(2) 「教育や体験の場」としての機能

① 石炭産業の過去・現在・未来を学習できる場

- かつての石炭産業を中心とした歴史や文化の展示
- 現在の石炭エネルギーの活用状況や未来の活用の可能性についての展示

② 体験を通して学べる場

- 見て、触れて、動かすことができる体験・体感型の常設展示
- ワークショップ等の実施による体験の場の創出

③ 誰もが分かりやすく学べる場

- 年齢や国籍に関わらず理解しやすい展示・説明

(3) 「観光資源」としての機能

① 文化観光資源

- 文化資源の観覧を通じて、文化について理解を深めることを目的とした観光を促進する

② 公園内随一のビュースポット

- 豎坑槽を活用した全国的にも珍しい展望台

2 基本的な取組

(1) 「記録や記憶の集積地」を実現するための取組

① 資料等の保存環境の整備

- 資料等を適切に保管するための収蔵スペースを確保します。
- 資料等のデジタル・アーカイブ化実現に向けた環境整備を行います。

② オンラインサービスの充実

- 資料等のデジタル・アーカイブ化を推進し、オンライン上で閲覧できるようにします。
- メタバース空間で石炭記念館を疑似体験できる環境の構築を検討します。

③ 市民団体との連携強化

- 歴史を記録し伝承する活動を行う市民団体等と連携し、情報の集積を行います。

(2) 「教育や体験の場」を実現するための取組

① 石炭産業の過去・現在・未来を学習できる場づくり

- 石炭エネルギーの現状や、未来の可能性についての展示を導入します。
- ストーリー性やコンセプトをもった展示レイアウトに見直します。

② 体験を通して学べる場づくり

- 触れる・体感する要素を取り入れた展示手法を取り入れます。
- VR等のデジタル技術を取り入れるなど、展示手法を見直します。
- ワークショップの内容や実施回数の改善を図ります。

③ 誰もが分かりやすく学べる仕組みづくり

- 子ども向けキャプションを導入するなど、わかりやすい解説方法に見直します。
- 多言語対応を図るため、パネル標記の見直しや音声ガイドの導入等を行います。

④ 他施設との連携強化

- 市内の図書館や学びの森くすのき等と連携し、石炭について学ぶ場や機会を創出します。
- 学校教育と連携し、学習プログラムや出前講座等の充実を図ります。
- 全国の石炭関連博物館等との連携を強化し、企画展等の充実を図ります。

(3) 「観光資源」として活用するための取組

① 訪れやすい環境づくり

- 石炭記念館へのアクセス性を向上するため、公園内にある誘導看板の設置場所や表示内容を見直します。
- 石炭記念館までのアクセス経路(園路)について、歩きやすい環境となるようコースや周辺樹木等の見直しを検討します。

② 展望台(竪坑櫓)の保全

- 老朽化した竪坑櫓の補修を行います。

③ 情報発信の充実・改善

- 講座的な内容を含め、情報の内容の充実を図り、更新頻度を高めていきます。
- 情報発信媒体について、SNS 等のさまざまなコンテンツを活用していきます。

④ イベントの見直し

- より魅力があり、広域からの集客が期待できるイベントを企画します。

3 検討方針

(1) 市の運営体制

基本的な取組を推進していく上では、人的体制を見直す必要があることから、施設の運営体制について見直しを検討します。併せて民間活力の導入や入館料の有料化などについても検討していきます。

(2) 市民団体との連携

宇部市には、石炭産業の歴史を記録し、伝承する活動を行なう市民団体が複数あります。こうした団体との連携を強め、市民の研究成果を蓄積するとともに、新たに市民と石炭記念館が共同で調査研究を行うことができる体制づくりを目指します。

(3) 教育機関との連携

石炭産業と一言で言っても、歴史学はもちろんのこと、地質学、機械工学などその分野は多岐に渡ります。これまでは炭鉱史を中心に調査研究を進めてきましたが、今後、現在や未来の石炭エネルギーを展示テーマに取り入れるためには、新たな専門的知識も必要になってきます。

このため、教育機関等と連携を図り、有識者の助言や指導を受けるとともに、教育機関と石炭記念館が共同で調査研究を行うことができる体制づくりを目指します。